

「艱難汝を玉にす」(かんなん なんじ を たまに す)

「艱難汝を玉にす」とは、人は困難や苦勞を乗り越えることによって、初めて立派な人間に成長するという意味です。

土光敏夫氏は、PHP研究所発行の「信念の言葉」の中で、次のように述べています。

計画とは「将来への意思」である。

将来への意思は、現在から飛躍し、無理があり、実現不可能にみえるものでなくてはならない。現在の延長線上にあり、合理的であり、実現可能な計画は、むしろ「予定」と呼ぶべきだろう。将来への意思としての計画は、困難を受け入れ、困難に挑み、困難に打ち勝つモチーフを、自らのうちにもたねばならない。

計画は、自己研鑽の場をつくる高い目標を掲げ、何がなんでもやりぬく強烈な意思の力によって、群がる障害に耐え、隘路を乗り越える過程で、真の人間形成が行われる。

艱難汝を玉にす。

そして艱難を自らに課し続ける人間のみが、不断の人間の成長を遂げる。